

教育実習事前事後指導の改善

山岸 知幸 ・ 池西 郁広* ・ 谷本 里都子 ・ 高木 愛
(附属教職支援開発センター) (高松市立牟礼南小学校) (学校教育) (学校教育)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

*761-0122 高松市牟礼町大町1115-1 高松市立牟礼南小学校

Improvement of the Prior and Subsequent Guidance of the Teaching Practice

Tomoyuki Yamagishi, Ikuhiro Ikenishi*, Ritsuko Tanimoto
and Megumu Takagi

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Mureminami Elementary School, 1115-1 Oomachi, Mure-cho, Takamatsu 761-0122*

要旨 学部の「4ヵ年を見通した実地教育プログラムの全体構想」や教育実習に関わってこれまで指摘されてきた課題も踏まえつつ、教育実習へ向けての事前指導及び教育実習後の事後指導の内容・在り方について検討した。改善案を策定し、試行実践を行い、アンケート調査の結果も参考にしながら、学生自身が自己の課題をより見いだすことが可能な、また、悩みや不安の軽減につながる事前事後指導の在り方についても言及した。

キーワード 教育実習 事前事後指導 自己課題 授業改善 実地教育プログラム

はじめに

教育実習は、将来教員を目指す学生にとって、大きな意味をもつものである。それは学生にとって、これまで学んできた様々なものを実践レベルで検証することを意味し、また同時に、自己の進路選択に大きな影響を与えるものとなる。

大学教員にとっても、教育実習は大きなものであり、それに向けて大学の授業で様々な基礎的また応用的な知識等を伝えてきている。教育実習を終えた後は、より実践的な指導力の育成を目指し、より専門的な教育を行うことになる。

このように、学生にとっても、大学教員に

とっては、教育実習は大きな意味をもつものであり、教育実習を中心に学部のカリキュラムが編成されていると言っても過言ではない。

本学部では、教育実習のための事前事後指導を、1単位の授業科目「教育実践演習A」として開講し、事前指導10コマ、事後指導5コマで構成している。事前指導では、教職に関する科目や教科に関する科目で学んだことを確認することはもちろんのこと、教育実習を行う学校について理解し、社会人としてのマナーをも確認することを目的としている。一方、事後指導では、教育実習で学んだことを振り返り、今後の自己の課題を明確化するとともに、教員という仕事への学生自身の適性を見極めることを支援する意味合いももつ。

本研究では、教育実習を行うにあたって、その直前に行う事前指導と、教育実習後の事後指導に焦点を当て、そこでの内容や授業の在り方について検討し、授業改善案を策定した。本稿では、その経緯や取組を報告するとともに、そこから導きだされた今後の課題についても言及していきたい。

1. 「教育実践演習A」のこれまでと改善に至る経緯

本学部では、前述のとおり教育実習事前事後指導は、授業科目「教育実践演習A」として開講されている。これまでは、事前指導10コマのうち8コマ分（主免・副免）の事前指導を、附属学校園の先生方に実地指導講師としてご担当いただいていた。

学生や附属学校園からの事前指導改善に関わる要望が強く、また教育的な観点から、「教育実践演習A」では、当該年度に教育実習を行う校種のみ事前指導を受講し、残りの4コマ分

は共通部分として、大学教員による講義を行うことに変更した。

その具体的な授業内容、授業構成について、附属教育実践総合センター（以下、実践センター）の研究プロジェクト「教育実習を軸とした4ヵ年を見通した実地教育プログラムの改革に関する研究プロジェクト」（平成25・26年度）においても検討いただき、そこでの意見等も踏まえ、授業改善を進めることになった¹⁾。

2. 事前指導の改善実施と検討課題

（1）事前指導の改善について

平成25年度の研究プロジェクトで、これまでの教育実習事前事後指導の実際を報告するとともに、附属学校園及び学部委員の方々からのご意見も踏まえながら、学生が教育実習を行う直前の段階で必要なことを再検討し、授業改善案を策定していった。最終的に、資料1のシラバスを作成するに至り、平成26年度より改善実施を行うこととなった。

授業の概要・目的

本科目は、教育実習の事前事後指導であり、教育実習を行う学生の必修科目である。
事前指導では、3年次の主免実習と4年次の副免実習へ向けて、これまでの学びを確実に振り返るとともに、教育実習のための基本事項を学ぶ。また、教職に対する使命の自覚、法令遵守、社会規範やモラル、マナーの向上を図る。授業では、主免で教育実習を行う附属学校園教員による教育実習の意義・目標・課題の確認と学習指導や生徒指導・学級経営の実践についての指導を受ける。

事後指導では、主免教育実習の確実な振り返りを行い、自己の今後の課題を明らかにする。そうすることを通して、4年次の副免教育実習につなげていく。

到達目標

- 教育実習を行う附属学校園のことを理解するとともに、教育実習に関する心構えや基本的事項を理解することができる（事前指導）。
- 教育実習を反省的に振り返り、4年次の副免教育実習や教職に就くことに向けた自己の課題を明らかにする（事後指導）。

成績評価の方法と基準

附属学校園からの評価及び提出物（レポート等）により総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

- (1) オリエンテーション
 - (2) 事前指導①—教育実習とは何か・附属学校園の現状と教育実習へ向けての心構え—
 - (3) 事前指導②—生徒指導と学級経営（子ども理解を含む）—
 - (4) 事前指導③—授業づくりと学習指導案—
 - (5) 事前指導④—「教師になるための学びの計画と履歴」をもとにした自己課題の整理—
 - (6) 学校園別事前指導①
 - (7) 学校園別事前指導②
 - (8) 学校園別事前指導③
 - (9) 学校園別事前指導④
 - (10) 事前指導⑤—教育実習へ向けての最終確認（事務的な連絡を含む）—
 - (11) 事後指導①—教育実習を振り返る—
 - (12) 事後指導②—自己の実践課題の明確化（授業場面）—
 - (13) 事後指導③—自己の実践課題の明確化（授業以外の場面）—
 - (14) 事後指導④—教職へ就くためのこれからの課題—
 - (15) 事後指導⑤—4年次教育実習へ向けて—
- ※(1)～(10)は前期、(11)～(15)は後期に開講する。なお、(11)～(15)は半日2日で実施する。
※(6)～(9)は主免実習校、基礎免実習校の事前指導を受ける。

資料1 平成26年度「教育実践演習A」のシラバスの概要

事前指導改善にあたっては、どの校種にも共通するものになることを確認し、以下の点をポイントとして改善を行った。

シラバスの「事前指導①～④」をあらたに設定した。オリエンテーション後に、学校現場の概説として、①「教育実習とは何か・附属学校園の現状と教育実習へ向けての心構え」を行うことにした。教育方法学研究においては、授業指導と学級指導は教育実践における両輪である。今日的な状況も踏まえながら、学級指導を②「生徒指導と学級経営（子ども理解を含む）」として1コマ分の授業内容にし、それを受け、③「授業づくりと学習指導案」へと展開することにした。そして前半のまとめとして、④「教師になるための学びの計画と履歴」（以下、「学びの履歴」と略す）をもとに、教育実習に向かう学生自身の自己の課題を整理することを目指した。なお、①～③を交流人事教員が、④は科目代表者が担当した。

各回の概要²⁾は、①では、教育実習の心構えを中心に、守秘義務をはじめとする法令遵守に関わること、学校園、プライベートでの日常生活についての内容で構成した。②では、教師の一日の学校生活について確認するとともに、子どもを理解するための子どもへのかかわり方、ほめ方、しかり方等に焦点を当て内容を構成した。③では、とりわけ学習指導案に焦点を当

て、学習指導案を書くことの意味を再確認するとともに、校種や学校園をこえた共通に関わる場所での詳細な書き方にまで焦点を当て内容を構成した³⁾。④では、「学びの履歴」をもとに、これまでの学生の学びを振り返るとともに、自己の課題が見いだせるよう内容を構成した。

(2) 今後の事前指導改善のために

改善実施した事前指導について簡単なアンケート調査を2回行った。その目的は、学生の満足度をはかるのはもちろんのこと、今後の事前指導の改善につなげるためである。以下、アンケート結果について報告する。

なお、平成26年度は、日程の関係から、②「生徒指導と学級経営（子ども理解を含む）」を4番目に実施することになった。

1) 第1回アンケート（各授業終了時）

資料2のアンケート項目で、各授業(①～④)後に実施した。

アンケート結果(図1)をみると、①と②が類似している。学生にとって質問項目の「確認する」と「深める」が同様に把握されたと思われる。項目の精選が必要であったと思われるが、これまでの学びを確認するという点で、7割を超える学生が肯定的な評価を行っていた。また、③「自己課題」と⑤「満足度」でも平均

授業アンケート

本授業について、以下の項目について、1「非常にそうである」、2「おおむねそうである」、3「どちらともいえない」、4「あまりそうでない」、5「全くそうでない」までを5段階として考えて、あてはまる1から5の数字のところにお印をつけてください。数字の間の・・・のところには、○印をつけないでください。番号を間違えないようにお願いします。

- ① 本授業は、これまでの自己の学びを確認するのに役立った
..... 1 2 3 4 5
- ② 本授業は、これまでの自己の学びを深めるのに役立った
..... 1 2 3 4 5
- ③ 本授業を通し、今後の自己の課題が明らかになった
..... 1 2 3 4 5
- ④ 本授業を通し、自己の悩みや不安を解消することができた
..... 1 2 3 4 5
- ⑤ 総合的に判断して、本授業に満足しましたか
..... 1 2 3 4 5
- ⑥ その他、授業について「思ったこと」「考えたこと」「要望」等があれば、以下に記入してください。

資料2 授業アンケート項目

して7割の学生が肯定的な評価を行っていた。ただし、⑤「満足度」では、「生徒指導と学級経営（子ども理解を含む）」の評価が高めであるが、学部2年次にこの観点からの実地教育関連の授業を履修していたことが影響していると推察された。

④「悩みや不安の解消」では、後半になるほど肯定的な評価が高まっていったが、他の項目と比較すると、肯定的な評価をする学生が少なかった。この点を事前指導における一つの大きな課題として把握した。

2) 第2回アンケート（事前指導終了時）

先の資料2と同様なアンケート項目で、事前指導終了時に、附属学校園による事前指導と、全体としての事前指導についてアンケートを実施した。

アンケート結果（図2）をみると、①～③、⑤では、両者で8割近くの学生が肯定的な評価を行っていることから、概ね学生にとってよい学びになったのではないと思われるが、肯定的ではない回答をした2割の学生への配慮が今後の一つの課題となる。なお、「非常にそうである」と回答した学生数は、附属学校園による事前指導の方が10ポイント程度上回っていた。

事前指導を終えた時点でも、④「悩みや不安の解消」では、肯定的に評価したのは約5割の学生にとどまった。第1回のアンケート結果と同様、この点が、今後の事前指導における課題となると把握した。

3. 事後指導の改善実施と検討課題

これまでの教育実習事後指導では、全体指導（2.5コマ）とコース別指導（2.5コマ）を半日2回として実施してきた。

全体指導では、自分が実践した教育実習での1校時分の授業を、「事前準備」「授業後の自己の気づきと反省」「先生方や他の実習生からの指導や指摘」という視点から振り返り、どのような改善授業を行えばよいか、という課題に対して、ワークシートにまとめるものであった。

あわせて、4年次の副免教育実習へ向けての教育実習全般についての自己の課題の再確認を行うというかたちで進めてきた。

コース別指導⁴⁾では、学生が設定された朗読ボランティア、視覚障害者・点訳ボランティア、社会的スキル訓練等の5つのコースの中から1コースを選択受講し、そこで学んだことをレポートにまとめるものであった。こうしたコースでの学びには大きな意味があり、今後の教育実習への示唆を含むものであった。学生アンケートでも非常に高い満足度を得ていた。

しかし、こうした学生にとって魅力ある体験的なコースであるが、学部授業や課外でのボランティア等に関わる機会も増えていること、また、これまでの全体指導で振り返りのための時間が十分に確保できたとは言い難いことの原因から、「確実な自己の実践への振り返りを行うこと」、また「副免教育実習につながること」を目指し、より充実した内容での事後指導への転換を図ることにした。

資料1のシラバスの内容を、全体指導2回として行うことにした。具体的には、以下の流れで事後指導を進めた。

○第1回全体指導

- ・講話「教育実習の振り返りとこれからの課題」
- ・ワークシート（授業中の場面、授業以外の場面）を用いた教育実習の振り返り（資料3）
- ・上記を用いたグループ内意見交流と全体報告の準備

○第2回全体指導

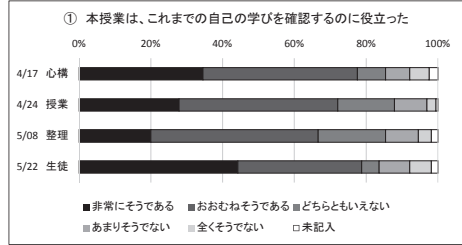
- ・「教育実習」報告・意見交流会（「教育実習を通して学んだこととこれからの課題」）
- ・メッセージ「教職を目指すみなさんへ」

第1回全体指導は、学生の事前指導での様子を把握し、かつ教育実習の参観・指導を行っている交流人事教員を中心に、学生の教育実習での様子や課題について講話（指導）し、学生自身が教育実習を思い出し、振り返ることを促した。それを受け、「授業中」の場面、「授業以外」

① 本授業は、これまでの自己の学びを確認するのに役立つ

	4/17 心構	4/24 授業	5/08 整理	5/22 生徒
非常にそうである	57	46	33	73
おおむねそうである	71	73	77	57
どちらともいえない	13	26	31	8
あまりそうでない	11	15	15	14
全くそうでない	9	4	6	10
未記入	4	1	3	3

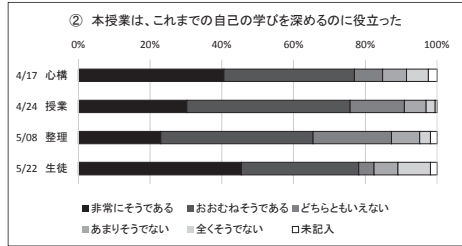
(人)



② 本授業は、これまでの自己の学びを深めるのに役立つ

	4/17 心構	4/24 授業	5/08 整理	5/22 生徒
非常にそうである	67	50	38	75
おおむねそうである	60	75	70	54
どちらともいえない	13	25	36	7
あまりそうでない	11	10	13	11
全くそうでない	10	4	5	15
未記入	4	1	3	3

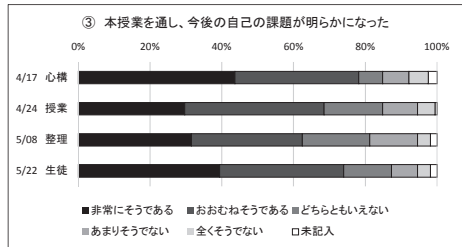
(人)



③ 本授業を通し、今後の自己の課題が明らかになった

	4/17 心構	4/24 授業	5/08 整理	5/22 生徒
非常にそうである	72	49	52	65
おおむねそうである	57	64	51	57
どちらともいえない	11	27	31	22
あまりそうでない	12	16	22	12
全くそうでない	9	8	6	6
未記入	4	1	3	3

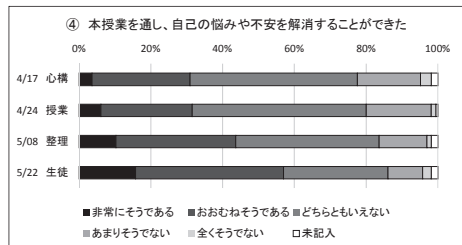
(人)



④ 本授業を通し、自己の悩みや不安を解消することができた

	4/17 心構	4/24 授業	5/08 整理	5/22 生徒
非常にそうである	6	10	17	26
おおむねそうである	45	42	55	68
どちらともいえない	77	80	66	48
あまりそうでない	29	30	22	16
全くそうでない	5	2	2	4
未記入	3	1	3	3

(人)



⑤ 総合的に判断して、本授業に満足しましたか

	4/17 心構	4/24 授業	5/08 整理	5/22 生徒
非常にそうである	59	42	33	85
おおむねそうである	66	69	68	46
どちらともいえない	14	37	41	5
あまりそうでない	11	10	12	14
全くそうでない	12	6	8	12
未記入	3	1	3	3

(人)

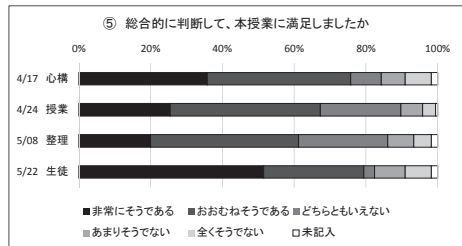
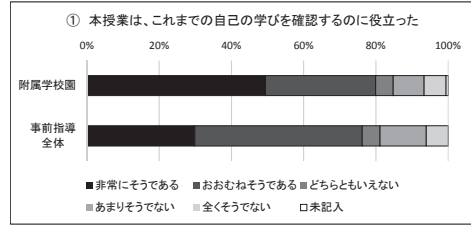


図1 第1回アンケート

① 本授業は、これまでの自己の学びを確認するのに役立った

	附属学校園	事前指導全体
非常にそうである	81	49
おおむねそうである	50	76
どちらともいえない	8	8
あまりそうでない	14	21
全くそうでない	10	10
未記入	1	

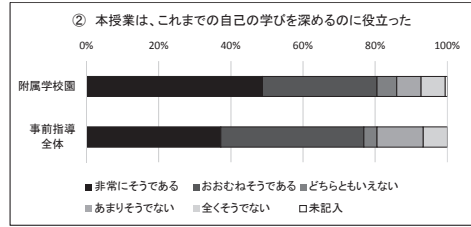
(人)



② 本授業は、これまでの自己の学びを深めるのに役立った

	附属学校園	事前指導全体
非常にそうである	80	61
おおむねそうである	52	65
どちらともいえない	9	6
あまりそうでない	11	21
全くそうでない	11	11
未記入	1	

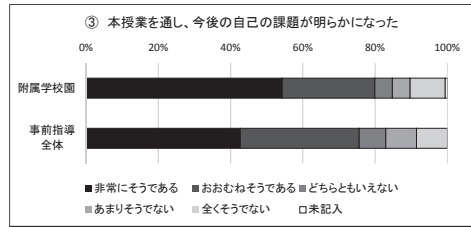
(人)



③ 本授業を通し、今後の自己の課題が明らかになった

	附属学校園	事前指導全体
非常にそうである	89	70
おおむねそうである	42	54
どちらともいえない	8	12
あまりそうでない	8	14
全くそうでない	16	14
未記入	1	

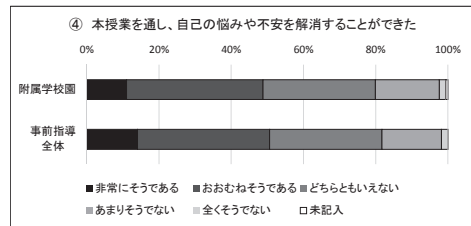
(人)



④ 本授業を通し、自己の悩みや不安を解消することができた

	附属学校園	事前指導全体
非常にそうである	18	23
おおむねそうである	62	60
どちらともいえない	51	51
あまりそうでない	29	27
全くそうでない	3	3
未記入	1	

(人)



⑤ 総合的に判断して、本授業に満足しましたか

	附属学校園	事前指導全体
非常にそうである	82	57
おおむねそうである	51	65
どちらともいえない	8	12
あまりそうでない	11	19
全くそうでない	11	11
未記入	1	

(人)

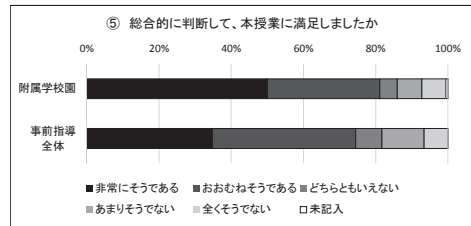


図2 第2回アンケート

学籍番号： _____ 氏名： _____

A よかったこと、うまくいったこと、成果があったこと

子どもの行動や発言	その時のあなたの考えと判断	その時のあなたの行動や発言
現在の考え		

B 困ったこと、立ち往生したこと、悩んだこと

子どもの行動や発言	その時のあなたの考えと判断	その時のあなたの行動や発言
現在の考え		

C 教育実習中の教員による指導の中で、最も勉強になったこと

--

E Dを読み、またA～Cを再度読み返して考えたこと

--

D A～Cを読んで他者からのコメント(2名)

学籍番号・氏名： _____
学籍番号・氏名： _____

F 授業(学習指導)についての自己の今後の目標・課題について

--

資料3 ワークシート

の場面について、資料3のワークシート⁵⁾への記入を通し、自己の課題を明確化していくことを試みた。その客観性を保つためにも、他の学生からコメントをもらうこととし、そのコメントを踏まえて、再度振り返ることを求めた。

第2回全体指導は、各校種・実習校園から2名の学生(計12名)を選出し、それぞれ5分で報告を行った。校種を超えたところでの学びには大きなものがあり、同時に、副免実習に向けての準備にもなると思ったことによる。最後に、附属教育実践総合センター客員教授より、学生の報告内容も踏まえたメッセージをいただいた。そのことにより、学生の教育実習の確実な振り返り(補充・深化・統合)を目指すとともに、実践現場の状況を踏まえた副免実習、また将来の教職に向けての意欲の高まりを目指した。

学生への満足度調査では、9割弱の学生が肯定的な評価を行っていた。しかし、前述の事前指導で示したように、ワークシートの記述には次年度の副免実習への不安が散見された。そこ

には、教育実習での失敗の繰り返しが起こるのではないかと、次年度の異なる校種での実習であることへの不安が見られた。こうした不安の軽減のためのワークシートを用いた、また意見交流会を組み込んだ事後指導の改善でもあったが、より学生の悩みや不安を軽減できるような、事後指導の在り方を検討していく必要がある。

おわりに

本稿では、教育実習事前事後指導に焦点を当て、その改善の試みについて報告してきた。

これまでの実践センター研究プロジェクトや学部附属合同研究集会で、教育実習中の学生の様々な課題が指摘されてきた⁶⁾。そうしたことを背景とし、教育実習直前の事前指導の在り方が問われてきた。一方、学部では、「4ヵ年を見通した実地教育プログラムの全体構想」が示され、主として、1年次「学校理解」、2年次「子ども理解」、3年次「授業理解」、4年次「教

職理解」という流れで学生の実践的指導力を育成する枠組みが示されてきた。こうした系統的な実地教育プログラムに見合った教育実習事前事後指導の在り方が問われてきているのである。

本研究の内容については、研究プロジェクトにおいても議論し、またそこでは、各附属学校園での事前指導の実際を資料とともに紹介された。このことも踏まえて事前指導の改善を進めたい。

今後の課題の一つは、とりわけ事前事後指導を通して明らかになった、学生の教育実習に対する悩みや不安の解消に関わってである。そもそも悩みや不安がないところで教育実習を行うを求めることには無理があろう。また悩みや不安がなく、自信に満ちあふれて教育実習を行うことには別の問題があるように思われる。大切なことは、悩みや不安を抱えながらも、教育実習へ向かえることができるかどうかということである。こうした視点も踏まえながら、今後の事前指導の内容についてさらなる検討を試みていきたい。また、悩みや不安にも様々なレベルがあり、とりわけ気になるのは漠然とした不安もっている学生である。こうした学生に対しては、学部の各課程、コース・領域との連携を重視し、また学内の教職支援体制が整いつつあることから、そこの連携のもと事前事後指導のさらなる改善を進めていくことが求められよう。

もう一つは、附属学校園との事前指導段階での連携についてである。研究プロジェクトを推進する中での情報等の共有は、事前指導の改善に大きな意味をもった。それぞれの指導内容や学生状況の日常的な情報交換・共有がよりよい事前事後指導につながり、そのことが質の高い教育実習へとつながっていくと思われる。

注

- 1) すでに、平成21・22年度の実践センター「教育実習を中心とした学部と附属学校園との連携による支援に関する研究プロジェクト」においても検討されてきたが、今回は内容や時

間数にも踏み込んだより大きな改善を目指した。

- 2) 各回の詳細な授業内容については、実践センター「教育実習を軸とした4ヵ年を見通した実地教育プログラムの改革に関する研究プロジェクト」の平成26年度第1回会合資料を参照。
- 3) これまでの実践センター研究プロジェクト等において、学生の学習指導案づくりにやや弱点があることが指摘され続けており、今回、とりわけ「学習指導案」を重視した。
- 4) 1990年代に、教育実践研究指導センターの研究プロジェクトとして、教育実習事前・事後指導のカリキュラム開発が進められた。その過程で、1995年度より選択制の反省的考察コースが事後指導カリキュラムの中に位置づけられることになった。例えば、住野好久他「教育実習事後指導における『養護学校一日実習コース』の実践」『香川大学教育実践研究』第31号、47-60頁、1999年、を参照。
- 5) 本資料3は、「授業中」の場面についてのものであり、ワークシート裏面には、同内容で、「授業以外」の場面のものを印刷してある。
- 6) 例えば、教育実習を中心とした学部と附属学校園との連携による支援の在り方に関する研究プロジェクト「教育実習をめぐる現状と教育実習を通じた学生の意識の変容」『香川大学教育実践総合研究』第24号、171-182頁、2012年、を参照。

付記

本研究は、平成25・26年度の附属教育実践総合センター研究プロジェクトの「教育実習を軸とした4ヵ年を見通した実地教育プログラムの改革に関する研究プロジェクト」の中の一課題として行われたものである。研究プロジェクト委員は、以下の通りである。なお、本稿は、教育実習事前事後指導の実際の実践に関する改善に関わった委員により記されている。

本研究プロジェクト委員

<平成25年度> (所属は当時)

七條正典, 植田和也, 山岸知幸, 宮前義和, 松下幸司, 松井梨奈(附属教育実践総合センター) / 池西郁広, 大西えい子, 谷本里都子, 片岡元子, 小方朋子, 岡田知也, 安東恭一郎, 野崎武司(香川大学教育学部) / 石井都(附属高松小学校) / 篠原智子(附属坂出小学校) / 吉田崇(附属高松中学校) / 近藤てるみ(附属坂出中学校) / 福家美香, 長谷有希子(附属特別支援学校) / 谷口美奈(附属幼稚園) / 藤井浩史(香川県教育センター)

<平成26年度> (所属は当時)

七條正典, 植田和也, 山岸知幸, 宮前義和, 松下幸司, 松井梨奈(附属教育実践総合センター) / 池西郁広, 谷本里都子, 高木愛, 片岡元子, 小方朋子, 岡田知也, 安東恭一郎, 野崎武司(香川大学教育学部) / 河田祥司, 加地美智子(附属高松小学校) / 篠原智子(附属坂出小学校) / 三野健(附属高松中学校) / 渡邊広規(附属坂出中学校) / 福家美香(附属特別支援学校) / 小川ひとみ(附属幼稚園) / 藤井浩史(香川県教育センター)